



- ・中央線「鶴舞」駅下車 名大病院口から東へ徒歩5分
- ・駐車場には限りがありますので、車でのご来場はご遠慮ください。
- ・会場内での飲食・喫煙はご遠慮ください。

本シンポジウムは事前登録制です。

お申し込みは本状をFAXまたは下記内容を電子メールにてお送りください。

お名前
ご所属
TEL
E-mail

申込書送付先
 FAX 052-735-5542
 E-mail c-socc@adm.nitech.ac.jp
 ＊複数の方がお申し込みされる場合は、コピーしてください。

事務局記入欄

<参加証>

受付番号	受付印
------	-----

当日は、本用紙をお持ちください。
 メールで申し込みされた方は、受付票をお持ちください。

主催 国立大学法人 名古屋工業大学
 独立行政法人 宇宙航空研究開発機構(JAXA)
 経済産業省 中部経済産業局
 後援 名古屋工業大学 研究協力会

これからの 高齡社会 をつくる シンポジウム

with JAXA in NIT 第1回

H.23.8.26 (Fri.)
13:30 - 19:00 (開場12:30)
会場:名古屋工業大学2号館
 (正門でメイちゃんにお尋ねください)
参加費:無料

国立大学法人
名古屋工業大学

「高齡社会」に求められるものは何か

日本社会は高齢者の比率が高い「高齡社会」に突入しています。名古屋工業大学は医学部も薬学部もありませんが、情報、機械を始めとして工学から「高齡社会」に取り組んでいます。

JAXA(宇宙航空研究開発機構)も高齢化とは無関係かと思われるかも知れませんが、①宇宙滞在中の宇宙飛行士の健康管理、②無重力空間での筋力維持の方法、③体臭原因物質を分解する衣料など、そのまま高齡社会に適用できるような技術開発を数多く行っています。また、④社会から隔絶された国際宇宙ステーションでそれを感じさせずに働くために、どのようなコミュニケーション手段を適用するのか、ということは、社会と隔絶されがちな高齡者世帯に何かが必要かという課題にも繋がっていると考えられます。

このように、「高齡社会」を巡って、名古屋工業大学とJAXAが共通の関心を持つことから、シンポジウムを開催することにしました。中部経済産業局も、次世代産業の中に「新ヘルスケア産業」を掲げており、これを支援することになりました。

このシンポジウムは、「高齡社会」に求められるものは何か、今後何を研究開発し、実用化に進めるべきか、といった課題を浮き彫りにすることを目標にいたします。このシンポジウムは単発のものではなく、回数を重ねて、持続的に課題を見出し、技術開発に繋げていく予定です。

こうした趣旨にご賛同いただき、多くの方々に積極的に議論にご参加いただき、その後の個々の活動を発展させるとともに、ご参加の企業も含めてこの場で共通の関心をもつグループが発足することを期待しております。

国立大学法人 名古屋工業大学 学長 高橋 実

全体プログラム PROGRAM

13:00 展示見学

13:30 開会のあいさつ (名古屋工業大学学長 高橋実)

13:35 趣意説明 (名古屋工業大学教授 大貫徹)

13:50 極限環境と新ビジネス創出への期待
(中部経済産業局地域経済部長 岡田武)

14:10 社会課題と「きぼう」利用の関わり
(宇宙航空研究開発機構 宇宙環境利用センター
技術領域リーダー 小林智之)

14:30 休憩

14:45 分科会(4会場)

16:40 全体会「パネルディスカッション」

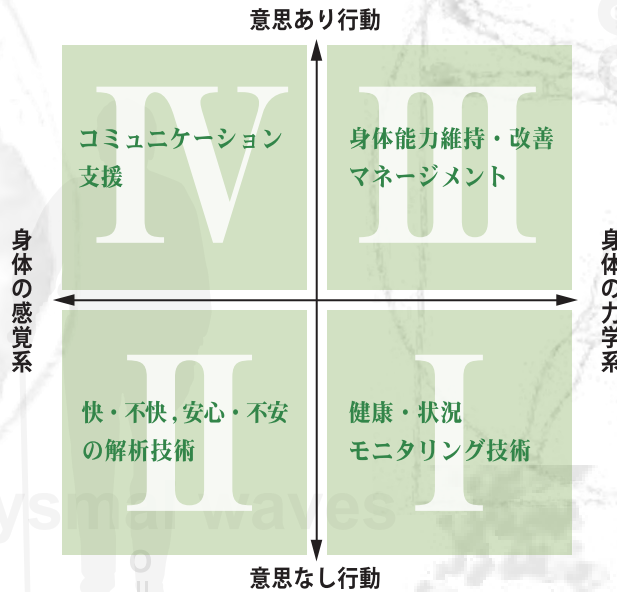
17:25 閉会のあいさつ (名古屋工業大学理事 木下隆利)

17:30 懇親会 (カフェ・サラ)

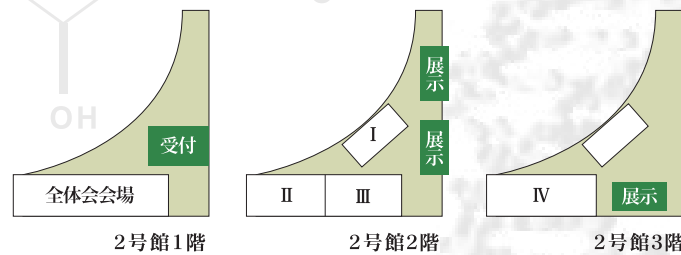
19:00 閉会

分科会のご案内 GUIDE

議論の幅を広げるため、4つのセッションを設けます。縦軸には意思の有無、横軸には力学系と感覚系を置きました。無意識における「I.健康・状況モニタリング技術」、無意識における「II.快・不快、安心・不安の解析技術」、意思に従って手足を動かす「III.身体能力維持・改善マネージメント」、意思を伝える「IV.コミュニケーション支援」と4つに分け、高齢社会の課題を議論します。



会場(2号館)配置図 SITE PLAN



分科会プログラム (14:45-16:30) MEETING

I 健康・状況モニタリング技術 座長：松本健郎

1. 「皮膚・呼吸から放出される代謝物質の健康への応用」
大桑哲男, 伊藤宏, 津田孝雄(ビコデバイス)
2. 「動脈硬化の超早期診断を目指した血管機能の検査法」 松本健郎
3. 「睡眠時無呼吸と心臓病」 早野順一郎(名市大)
4. 「安心・安全な暮らしを支える睡眠総合研究の展開」
裏出良博(大阪バイオサイエンス研究所), 大川匡子(滋賀医大), 角谷寛(京大医)
5. 「高齢化社会における居住環境デザイン」 伊藤孝紀

II 快・不快、安心・不安の解析技術 座長：遠藤英俊 (国立長寿医療研究センター)

1. 「高齢者のQOLと医療」 遠藤英俊(国立長寿医療研究センター)
2. 「次世代ハイセツ処理技術の展開」 吉田哲二(シー・エス・ピー・ジャパン)
3. 「高齢者の発話音韻と脳血流データを用いた認知症の早期スクリーニング」
加藤昇平
4. 「脳とコンピュータをつなぐ脳波インタフェース」
船瀬新王, Andrzej Cichocki, 内匠逸
5. 「ビーズレタン混合クッションによる寝たきり療養者の体圧分散効果」
西田政弘, 前川厚子*, 谷口由美子*, 黒柳いつ子(刈谷豊田総合病院東分院)
桜井志保美*, 榎田美咲(ブラザー), 中島朋也(*は名大)

III 身体能力維持・改善・マネージメント 座長：佐野明人

1. 「重力を利用した歩行とウエットロボティクス」 佐野明人
2. 「バーチャルリアリティ技術を用いた技能の体験・訓練」 坂口正道
3. 「宇宙・ロコモ筋トレ研究会の構想について」 稲葉智彦 (APTラボ)
4. 「大脳基底核活動モニタリングによる脳負荷評価法の開発」 荒牧勇(中京大)

IV コミュニケーション支援 座長：岩田彰

1. 「視聴覚情報に基づいた発話意図の自動認識」 酒向慎司
2. 「立体音響によるコミュニケーション支援」 黒柳英, 伊藤嘉浩
3. 「視聴者が見る場所を決める次世代3次元テレビ」 福嶋慶繁
4. 「ISS滞在型・情報発信ロボットの開発」 西嶋頼親(電通)
5. 「住民間のコミュニケーション支援のための地域情報構造化」
白松俊, 大園忠親, 新谷虎松

パネルディスカッション (16:40-17:25)

- 座長：岩田彰
- ・この領域の研究の意義を専門家から 遠藤英俊(国立長寿医療研究センター)
 - ・各セッションの座長から報告
 - ・会場から、ディスカッション

*所属無記載は名工大関係者